天竺徳物語

山東京傳作
歌川豊國画

1042

逍遥文庫
文庫6
991

一對男時花歌川　天竺德兵衛物語
朝茶湯一寸口切　今昔小町譚
却説浮世之助話　松縁高砂話
先讀三國小女郎　其寫繪戲俤
昔語丹前風呂　戀女房讐討双六
濱真砂石川草紙　躾草娘庭訓

柳欄開場詩

来来賜顧
俏看官
行首且頭
方上欄
拾做浣花
浣紗霞
我們眼只
向場觀

元人之作

○部目

這稗史い院本雜劇
様種として性古の
奇談を集録たるも
寓言の昏ふしめれば
唯一點ぐらも
善悪つひに報ある理を
録して児女の目ざとく而已

山東京傳記

文庫6
991

漢
播州高砂の浦の漁者なり実は純友の残黨
天竺徳兵衛
伊豫国の今張六郎とぞいへる

且
○播州室の遊君夕和実は淡路国松保浦之漁人五郎又之妻也

正且
○月若丸
之姐
賤機
之霊
魂
打諢
○荘屋李助

正生
○木久地家臣
唐嵜志賀
之進當春
○備後国木久地曽根之助
義直の一子月若丸
前

月わとたとけてとろくこもこととんの沓とのくちん心ろうをるだせろとまちられはとれくかのど

なまふふしうこたかどういこころふうれぬてゆうとうぐいぬとろがぬこりりくはそれ少ゆ
さ
ゆ
ちん
ちる
ゆへ
さた
かご
ようまとに
ゑびと
ろそのよ
こせそめ
ふつのられろ
あ人のゆのふ
ゆんさせそよおりけるゆりちん〜ふりぐ〜しと
りことあのぐこちくいぐくつもこもうひまのうせ
むじうめのくくふりうてどうんのひくうるぶせろ
らぐされよこのぐんめのとをむくいこうくとあ人と
てふうけるりしとけいくのこりとひこうこうそと
そくふつこたそくナんどふうたゆうれいいそこ
ゆてうちうぎのりうめのともゝ ゆべーをるじことあに
て月わとせそふあひぐんもくのくスおちりりう
○さてぬこはう月わとたこをけりてせうゆしること
ゆゆこんぜんうかスこさこれば月わとたこのあたこ
わうくこてんぐくこてもへこたのく月わをこうんぐくん
こくもへじゆうこちてそのゆくさたこんぐゆもこそこひゆひゆたこう

讀書丸
京傳
自画さん

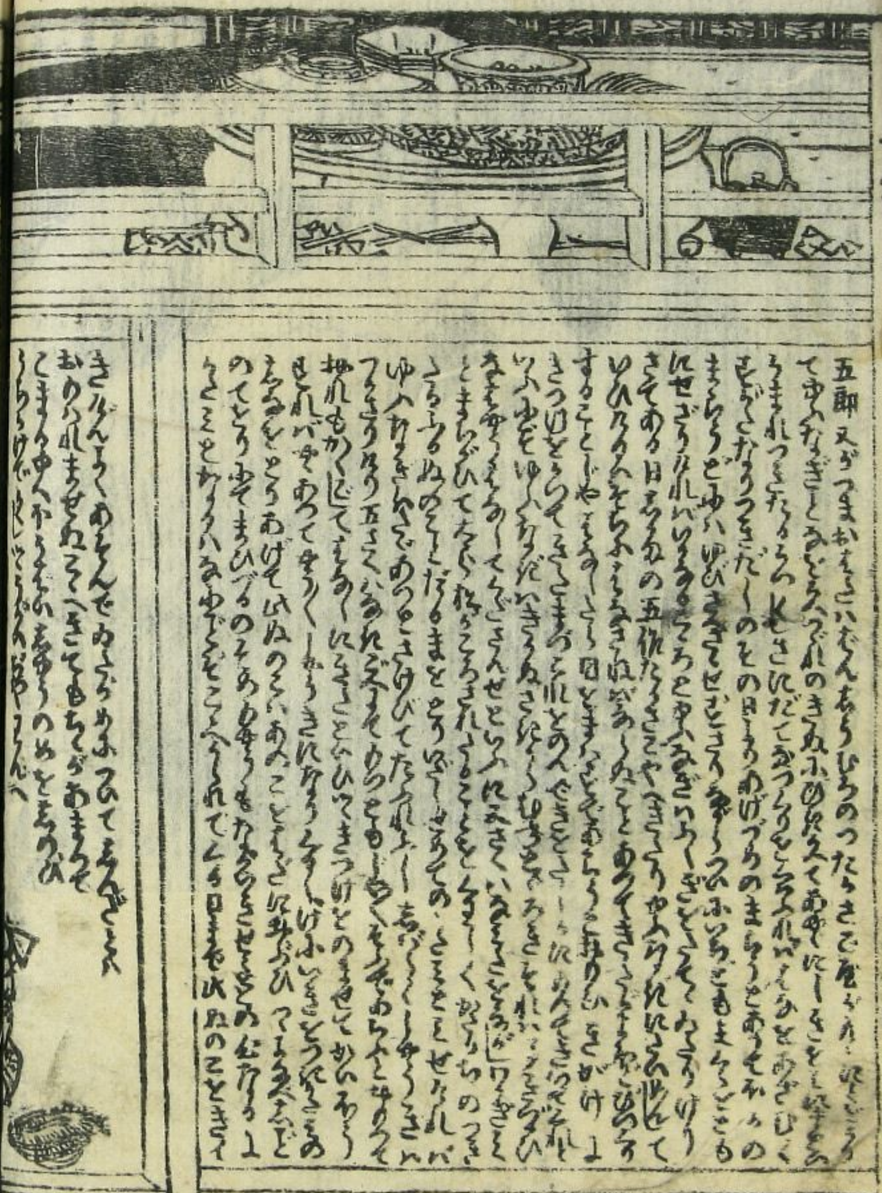
月
五
作

京傳作
豊國画　おくふ咲きちんじゅう記
一名九尾の狐のトリス
よろこん　五冊　出来かん

天七ノ三
曲豆國画
京傳作

刺客

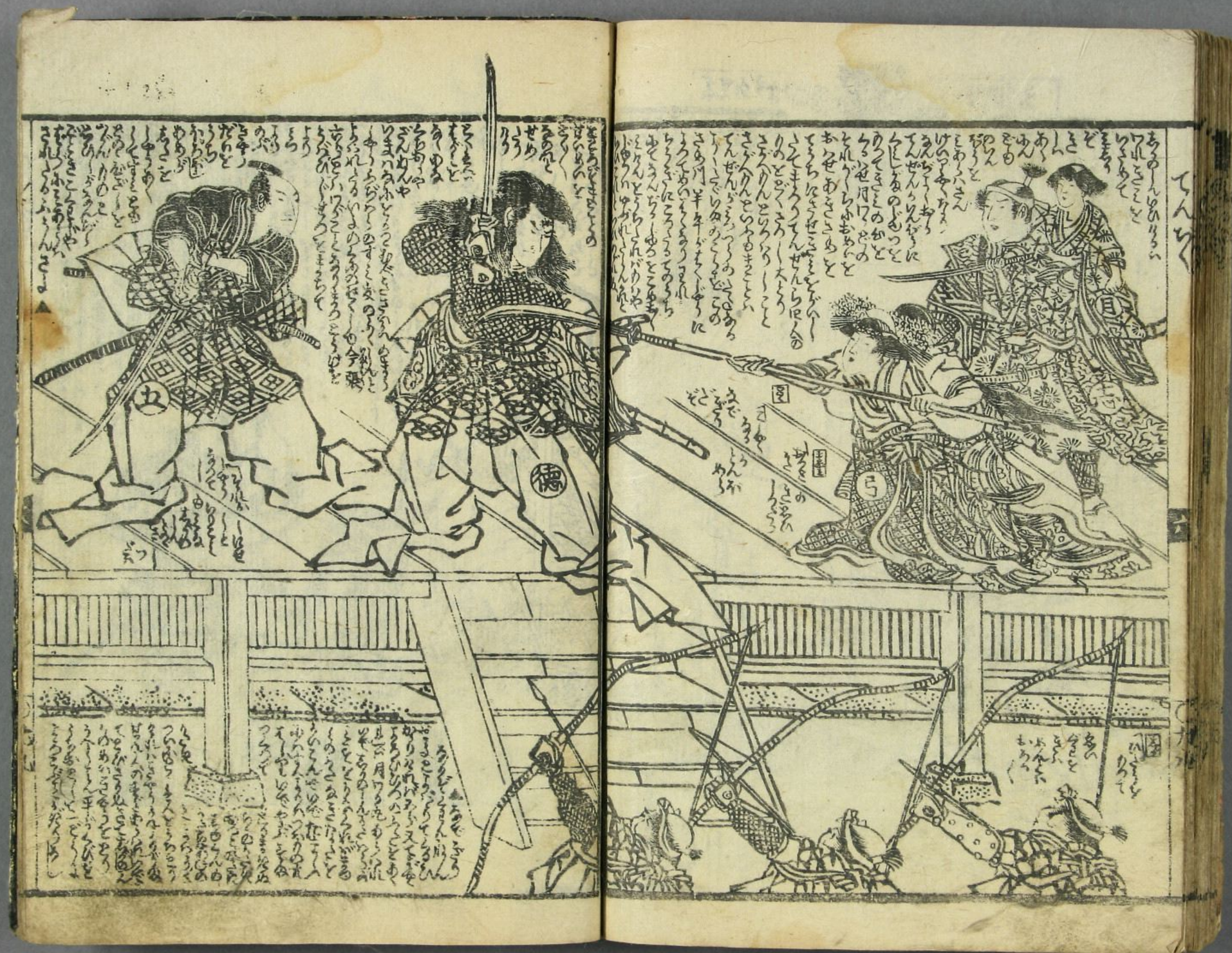
本朝とりがごい　五冊出来　京傳作　豊国画



五郎又がつまおとこハなんぢらひろのつたらさこ屋ゑ
てゆくわなぎしみどろへつれのきぬふめをえてあをにしをこ
うまれつきたるろの火もさいだておつろをこうれいをあをひく
もどをとかろつきだ〜のとのはしろのあげづろのまらうとあそれ〜の
まらうどゆハゆびまをさてせをさうあ〜つひふいろこもまゑ〜ごとも
ゐせざうれいいろるてろとやハるぎいろ〜ぎしくうそてゑうりけう
さそある日まろゑの五位たくさをやきてうりゆんうれいろゑ火をて
ゆひろろへをちふろうゑさゐれをるゑ〜んをてとあろそきくうをゑこゑのろ
するこをじやうそろてくこまろ〜てう日とまらとをあらうこありひをかけよ
きつゆどうろてくこまろ〜てうゑいろとをれハうをとをれハうをとをひ
いふゆをゆハうりだいきろゑぬをくうゑいをさくいるをこをろをじワぎく
ゑをゑ〜ゑろ〜てをぎうをこをさんせをいろをくいるをこをろをじワぎく
ゑまちをひてをくれろこをれをるをこををとをを〜くおろうちのつき
ゑるふるぬのをこだるまをとうをを〜ゑををの〜ををををををせをんしハ
ゆハけうきゆををあつるをけをを〜ゑをを〜ゑをを〜ゑ

京傳庵

てんぢく
ぶすのあくま
あくまぶす



蛙石

山東京傳作

てんちく

ゑふ又ふうふ志ゐのちんぞあさけふろうそさかとものことをえうろくのぶ〜とかりて行ゆくそ
ゑうと五さくとるんらくにぶ〜かひてきまりてく
うくとうく〜ふさびに三男二女をまうけて
おやこふうふ長寿をうの〜ふそんちぐくとく
きくんりるとそんこれまりさくちりうそのせろの
ゑてくねちのあるゆとちれりうでつくちん
おこのうぐさへ忠孝貞操の名を記
そさしりくくんりく

讀書花

一ゆとき　京傳店

きこんとちくしくのおびくとうくをちんじん
のきはしるはくしれつきころき人身とぐ
うろどぶ心ぎうつうひてちんろうとおりくする
人にあせんと志るまうとちぐりるかろ安
なんゆよにちきてしを利やべ〜ち中まるくふ
たくゆくてきをきおい〜ちまくつくはこう
さけのちひのたぐひハ一ちうゆそまろ〜あり
ういろすろうろふかきとゆさぐるこを見ひ
たちまうちきとひきこうるとりそ
そろうとちろべ〜

○尾陽東壁堂藏書目録

諸禮大學

泥尾先生著　贈八弧書

歌川國直画　大本　全一冊

初きものの八白き糸のごとく美にしきく深り見きこの白ぬものよりの行ハ為さく世のあるひ
吾ろくぬものよりの行ハ為さく世のあるひ
禮義をとく會得さもひ身を立名を挙
見るごとく懇切ねんとく導く師ハ稀まく杜撰のものあるけ
乃ふをひきれをとうくをハくに長くも深義不孝ーく衆人に
教への為きゆ為ゆ為ゆべ〜ーてを著す大學ハ
為き行ひの行要ゆを仮名交章に書作
解ーやすきやうまところ〜ゆ結成加（阪書屋の
礼の圖式ゆ〜ひて〜ゆくひとこまやうゆ載せ
れの行うく人の為をゆくひ学えゆるべ名誉の
早景求めのちくゆ此上やゆる一書の陽重廣大

御家書札文海

青蓮院宮御門人
梅厓先生筆　大本　全一冊

早速千字文

御家流
梅厓先生書　大本　全一冊

妙藥手引草

中齋・玉人著　全一冊

古方通覽

浅井先生校正
佐藤春杏著

合類 方書摘要 常陽良医 小川宗本撰書 小本 全五冊

[illegible]

醫家千字文 負庵浅井先生校正 医[illegible]

[illegible]

志ゑのすさび物語 六樹園大人著 全二冊

[illegible]

狂歌作者部類

六樹園大人撰

繪入大本　全二冊

世代さまの歌のあらくさを集めくる文わまとおわりて六その師の風をのこしてしかるに歌のさゑ和ろうしびらひるるびの人〳〵まへ琴程さゆへ人を古稀今報の差別なく五のことそのいと長さ〳〵秀逸ゆしこの人と多〳〵寿よむものくまかをえまさと歌人あるべし

増補渡世肝要記

全二冊

半紙本ひらかな絵入

しのうそうしゃ

士農工商身を立業ものと乃家まもりどくにたむうま部門和歌〳〵玉孫蜜柴のりをひらく捷徑の教訓を為へ〳〵日用有益のことを載て手ちかもしまくしまくしんしゃと文盲〳〵絵画あり

将棋定跡集

横本　絵刊の本あり

全二冊

将棋執心のあまたの多〳〵ものを定跡集とて八上達することあるべしこの本八さしまくしまくの定跡の物語古あり

士朗隨筆

枇杷園大人著　初編　全一冊

この書八士朗大人年ごろ俳諧の乃にとろ跡上長〳〵泳く古人の志を慕ふものゝ名ある俳人の一奇更多筆に隨〳〵書引ものを〳〵ひとりもとめく棒に上せ絶妙にわたぶ人〳〵この書ゝ〳〵味八多助法とるとと大〳〵ゝゝ殊ゝ慧論の真蹟までを写〳〵出さまこゝまハ代上かゝゝかるく又〳〵ひき隨筆あり

俳諧五七集

枇杷園大人著　半紙形小本　全五冊

これ先生生涯俳諧の集多き中にも殊にすぐれて新奇に趣向ある雅の数編をえらミ二十五韻ミちぬく五七集と号し先生一世の雅英をしく名を後世に芳しく綱花言葉の絶妙なる流れと論ずべからず　この道に心ざすものハ懐中して詠吟の糧となし源氏の味をよく解しなバおのづから秀逸を吐くの便りとなるべき佛書なり

雅語音聲考

鈴屋鈴木先生著　本居大人補　全一冊

およそ古事中のあびをあきらんと思ふ人ハ此の書よりよくよく考ふべし　かんがへの師は後の人の意を明かにせるものなり　一冊の書なれども万巻をよむのたすけとなる人の書のてんで載しまでなり

日用暦談

小林随景先生著　全一冊

こよみのうちしやくあり　知らで叶はぬことをあつめて女子どもにも見やすく平かなにて記せり

そもそもこよみといふものハその年の吉凶をくハしくあらはし天下の人のもちひる事なれども其こよみのうちにある事をしらざれバ何事もこのこよみのことを心得ずして成らぬ事を仕損じなどするもの多し　この書ハこよみのうちのことわりをあらはし八将神年徳神の吉凶善悪をくハしくしるし開運出世の基ともなるべし　その年の暦とこれを見合せて万事をおこなひ自在成就の目出度き事多からし　千門萬戸必用の有益の書と謂つべし

晴雨考

士雄南皐先生著　俗名竹橋中幸之

全一冊

一年三百六十日晴雨風雲星るべうしげ吉雄先生五運六氣の理を究め天地の機密を窺ひ考へ合せ[illegible]この小冊中暖冷候の循環不順[illegible]常にこの書を[illegible]晴紀[illegible]身を慎り[illegible]必慰[illegible]日用の[illegible]

立花當用集

紙形　吉の書多り

全一冊

物品の人々この書に[illegible]師に[illegible]主発の[illegible]

答問録

本居大人著　大本　全一冊

この書は[illegible]人本居大人歌書のうち[illegible]

信海三十六歌仙

石摺折本一帖

信海翁八幡山の豊蔵坊とて[illegible]

通俗西湖佳話

全本四冊

この書ハ唐土の勝地西湖の奇蹟を集めしものにて今世におこなはるゝ能く多くの中より抜きとりしものなれば実に美談の類なるもの小説家の珍ことに珍すべき奇妙の話説なき事なくいづれも西湖とのみいへる事ハいよいよ文人才子のわが知るべく風流をこのむものゝ観楽の業となる巻中にあまねくあり

蕙齋麁画

初編一冊
二編一冊

先生の画帖世に行るゝといへども画家の図をあつめしものハ多くの略画にてあらゆる草画ハ筆意すぐれて学びがたしといへども一家の画筆丹青をまなひ[illegible]物ハものの形もそのまゝ筆のふでの画くことをうつせば画家の備わりし先生のたくみなる妙とのべし

一筆画譜

福善齋先生遺稿
前北齋為一翁嗣筆

全一冊

この画譜ハ福善齋先生存意一家の用識をとらし変態新奇の工夫をなして一筆画の図をあらはしたるを一翁ことに筆を続ぎてつひに全本となしぬ名世にあらはるゝの後なれバ両先生の筆力絶妙にして古人の機軸を稀なる一点神通せざるハなし[かく]奇筆の画帖なるべし[又]世の人[の]粧[ひ]し[て]画をまなぶものハさらなり詩歌俳諧の好士までひろくよび手にふれてしきりに清興暇をおどろかし佳境巻中に充満せり実に臨本中の冠たるものとこの譜の右に出るなかるし

東都書物問屋
名古屋本町通七丁目 永樂屋東四郎
江戸日本橋通本銀町 同 出店

早稲田大学図書館
011688991600